報道関係各位
プレスリリース

2014/9/25
コンデナスト・ジャパン

『GQ JAPAN』2014 年 11 月号（9 月 24 日発売） 緊急レポート

「他人の顔を手にした男：リチャード・ノリス」

顔面移植で取り戻した第２の人生

Global な視点で物事を考え、Independent な男の 24 時間 365 日の情報源『GQ JAPAN』（コンデナスト・ジャパン発行）最新号（9 月 24 日（水）発売）では、ショットガンで過って自分の顔面を打ち砕いてしまい、命は取り留めるも顔面のほとんどを失ってしまった 22 歳（当時）の男。150 人を動員し 36 時間に及んだ手術後のリチャードに US 版『GQ』が密着取材を敢行した。

RICHARD NORRIS
他人の顔を手にした男:リチャード・ノリス

The Miraculous Face Transplant of RICHARD NORRIS

他人の顔を手にした男:リチャード・ノリス
顔面移植で取り戻した第2の人生

ショットガンで誤って自分の顔面を撃ってしまったリチャード・ノリスは、命を取り留めるも顔面のほとんどを失ってしまう。
そこに現れたのは、他人の顔を完全移植するという大手術を持ちかける医師だった。生存率50%という命がけの手術は成功するのだろうか。
また成功したとしても、他人の顔を手に入れたリチャードは、はたして自分の人生を取り戻すことはできるのだろうか。US版『GQ』がリチャードに密着取材をする。

Text: Jeanne Marie Laskas　Photos: Dan Winters　Translation: Ottogiro Machicane

リチャード、22歳

あれは不幸な事故だった――それ以外に言葉もない。、まして やどれだけ懸命に言葉のあ とをあ とのようとしたところで空しいだけだ。その男が一瞬にして失ったのは、財産でも仕事でもなく、世界にふたつとない自分自身の顔なのだから。

リチャード・ノリスは22歳のとき、散弾で顔を打ち砕いてしまった。1997年のことだ。どうしてそんなことになったのか、思い出そうにも見当もつかない。取り戻したのつかないあの刹那。3フィート離れてリチャードと向き合っていた母親が言うには、"事故"が起きた。血手の顔のもれ弾がシャワーのように降りかかってくる。ふたりがいたのはリビングルーム。リチャードが手をかけたショットガンが発射し、彼の鼻を、頬骨を、歯を、舌を、唇を次々吹っ飛ばした。残っていたのは大きく見開かれた真っ黒色の両眼と、ズタズタで、頬を巻くかのようにねじくれた肉塊ばかり。

リチャードの人生を変えることになる出来事は、この悲劇的な出来事に端を発する。変わり果ててしまったおのれの顔を残酷なあざけり、彼は隠蔽のごとくに引きこもり、まるまる10年近くを費やしたヴァージニアの山麓で両親とともに過ごした。怪物さながらの素顔をリチャードが見せにすむように、父と母はすべての鏡に覆いをかけ、息子は食事すら自室にこもったままでとるようになり、ごくまれに外出するときには、黒いマスクで顔を覆った。そのせいで警官に強盗と勘違いされ、止まれと銃口を突きつけられたこともあったという。

そんなある日、両親がインターネットで見つけ出したのが、ボルティモアの顔面再建外科医エドワアルド・ロドリゲスだ。リチャードの顔をともにしてみたいとロドリゲス医師は持実し、それから数年のあいだに幾たびも手術をくり返した。リチャード本人の頭蓋の形態から鼻に似せた付加物をつくり、両頬から下顎の代替になるものをつくった。しかし、しかしそれらは偽物に過ぎず、失われた顔を取り戻すにはほど遠かった。ところがロドリゲス医師は諦めない。さらに踏み込んで手術を考えていたからだ。解剖病理学で明鏡を重ねてきた彼は、他人の顔をまるごと移植する可能性を思い描いていた。前例のない最後の移植手術を成功させ、リチャードに新しい顔をプレゼントするのだ、と。

顔面移植手術が実現したのは2012年3月19日。交通事故で命を落とした21歳の男性がドノーとなった。ロドリゲス医師はリチャードの顔の残っていた部分をすべてメスで切開し、頭蓋部から顔の前半分をごっそりとドナーの顔を移し替えた。ドナーからもらえることの切り取った顔をネジで固定し、上顎をはめ込み、接合部を縫い合わせる。

36時間ぶっ通しの手術が無事に終わったとき、両親はリチャードが誕生したかのような思いを抱いた。「リチャードが帰ってきてくれたわ」と電話口に、事故以来すっかり口数が少なくなっていた夫に告げた。

いま、リチャードは39歳。手術以来メディアで騒がれて時の人となったが、顔を授かったことへの感謝と、稀有な被害者として託された使命への使命を忘れることなく、普通な人生を送っている。

リチャードと会う

リチャード・ノリスへの取材が決まったとき、最初に訪れたかったのは、他人から顔を授かるという奇跡をどう受けとめているのかだ。他人の歯で食べ物を噛む感覚がどんなものなのかは、本人にしかわからないことだからだ。手紙を送るとリチャードに、新しい顔はあらゆる点で申し分ないと答えてくれた。ファンから電子通も手紙が届くし、そのひとり、ニューオーリンズで暮らす女性が新しい彼女になってくれて、近いうちに会いに行く予定だとも。いまは大学に通っていて学業に専念したいと書き添えた上で、自宅にわたしを招いてくれた。

ヴァージニアの山麓にあるノリス家に着くまでは普通の暮らしぶりだった。それは山の斜面

GQ JAPAN 187

GQ JAPAN 2014 年 11 月号
Photo: Dan Winters
©2014 Condé Nast Japan. All rights reserved.

「ショットガンで自分を撃ち、22 歳のときに僕は顔面を失った」
リチャードが一瞬にして失ったのは、財産でも仕事でもなく、世界にふたつとない自分自身の顔。
そして、そこに現れたのが、他人の顔を完全移植するという大手術を持ちかける医師。
生存率 50%という命がけの手術は成功したとしても、他人の顔を手に入れた彼は、はたして自分の人生を取り戻すことはできるのだろうか？　現在、39 歳になったリチャード。手術以来メディアで騒がれて時の人となり、顔を授かったことへの感謝を述べる。稀有な被害者としての人生を送るリチャードをロングインタビューでご覧いただけます。

そして他には、西島秀俊６ページグラビア「旅が僕にくれるもの」。
近年、顕著な活躍で輝きを放ち、性別を問わず最も注目される俳優・西島秀俊にクローズアップ。10 月から放映される新作ドラマの撮影裏話を交え、スーツを纏いながらも存在感を主張するソリッドな肉体を手に入れた俳優の凄みを訊くインタビューとファッションビジュアルを掲載する。

そんな実力派俳優も 20 歳代の頃はバックパッカーだったという。そして多忙極まりない現在でも、彼にとって「旅」の時間は特別であると『GQ』に語る。自身を俯瞰して捉えたり、普段とは違った角度から物事を見たりすることができるからだ、と。

GQ JAPAN 2014 年 11 月号
Photo: Kazunari Tajima @MILD
©2014 Condé Nast Japan. All rights reserved.

デジタルリンク先
◇GQ JAPAN サイト　http://gqjapan.jp
◇Twitter @GQJAPAN　http://twitter.com/GQJAPAN
◇Facebook　http://www.facebook.com/GQJAPAN
◇iPad アプリ FULL SPEC 版　http://gqjapan.jp/ipad/
『GQ Weekly』スタート記念。30 日フリートライアル実施中！
最新号からセレクトした記事のインタラクティブ版を毎週配信する『GQ Weekly』を iPad 限定でリリース中です。いま年間購読をお申込みいただくと、11 月号フル版と『GQ Weekly』が 30 日間無料でお楽しみいただけるキャンペーンも実施中です。

【GQ JAPAN】
1957 年に米国で創刊し、現在 20 カ国で発行する、クオリティ・ライフスタイル誌『GQ』の日本版。知性・品性・感性を備え、本質にこだわる男性のための月刊誌として、2003 年に創刊。時代に影響を与えた各界の男性たちを毎年年末に表彰する「GQ Men of the Year」も好評。

編集長：鈴木　正文（すずき　まさふみ）／ 発売：毎月 24 日 ／定価：600 円（税込） ／ 発行：コンデナスト・ジャパン

インターネットへの掲載の場合、次の URL を掲載の上、リンクしてください。
http:/ /gqjapan.jp/latest/
本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先　GQ JAPAN　マーケティング部　尾崎・平大路　TEL: 03-5485-9101